

## 第68回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 平成27年9月8日（火）13時30分～15時00分
2. 場 所 福島大学事務局棟 第2会議室
3. 出席者
  - 【学外委員】阿部正、菅野典雄、清水潔、杉原陸夫、田原博人、富田孝志、林由美子、山崎捷子、渡邊博美
  - 【学内委員】中井勝己、功刀俊洋、三浦浩喜、神子博昭、青柳隆夫、千葉養伍、久我和巳、真田哲也、二見亮弘、中村信一
  - 〔オブザーバー〕 副学長：小沢喜仁  
監 事：平山健一、高橋宏和
4. 欠席者
  - 【学外委員】近藤貴幸、八島洋一
5. 議 事
  - 【審議事項】
    - (1) 学内諸規則等の制定について
    - (2) 駐車場の整備について
  - 【報告事項】
    - (1) 平成27年度監事監査計画について
    - (2) 役員の報酬及び職員の給与水準の公表について
    - (3) 平成28年度概算要求について
    - (4) その他
      - ・オープンキャンパス2015の報告について

議事に先立ち、中井学長から、挨拶があった。

### 【確認事項】

第67回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

### 【審議事項】

- (1) 学内諸規則等の制定について
  - 功刀理事から、資料1に基づき、ガバナンス総点検について（最終報告）を踏

まえ、経営協議会学外委員に関する選考委員会等に関する学内諸規則等の制定について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(以下、◇はその議題に関する学外委員からの質問・意見、◆は大学側の回答等を表す。)

◇ガバナンス総点検（最終報告）は誰が誰に対して行っているものなのか。報告書にまとめるまでの経緯はどのようなものだったのか。経営協議会ではあるが、最終報告書の前に学外委員に意見を聴く機会があっても良かったのではないかと思う。また同様に学内委員会のスリム化も進めた方がいいだろう。

◆最終報告書は、役員会から教育研究評議会へ提案し、最終的に報告したものである。昨年の夏から整備を始め、原案は役員会において審議を行い、1年かけて議論しまとめてきたものである。その間に学内から意見を伺い、フィードバックさせてきた。学外委員に意見を聴く機会が設けられなかったことについては、非常に残念であり、申し訳なく思っている。学内委員会の見直しについては、8月にも職員との拡大運営会議を行い委員会について意見をいただいているところであり、学内意見を集約し、特に教員の委員会の負担を減らすような環境をどう整備するか等、これから検討していきたい。

## (2) 駐車場の整備について

功刀理事から、資料2に基づき、金谷川キャンパスで課題となっている路上駐車を解消するべく、隣接する民有地を借地契約し、民間業者への委託により駐車場の整備（増設）と運営を行うことについて提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

◇学生は無料になるのか。

◆現在学生の自家用車通学は基準を設けた許可制にしており、駐車場を有料化した後も、許可をした学生については無料である。

## 【報告事項】

### (1) 平成27年度監事監査計画について

中井学長から、資料3に基づき、国立大学法人福島大学監事監査規則第7条に基づき監事から学長へ平成27年度監事監査計画について通知がなされたことの報告があった。続けて平山監事から、平成27年度監事監査計画の内容

について説明があった。

(2) 役員の報酬及び職員の給与水準の公表について

功刀理事から、資料4に基づき、毎年度公表することとされている役員の報酬及び職員の給与水準について、文部科学省に提出するとともにホームページに掲載して公表したことの報告及びその概要について説明があった。

(3) 平成28年度概算要求額の伝達等について

功刀理事から、資料5に基づき、平成28年度概算要求額の伝達等について報告があった。続いて三浦理事から、共通政策課題である入学者選抜改革分の概要について説明があった。

◇入試改革について、平成30年度には新たな入試制度が開始されるが、これからはどのような学生をとるかではなく、その大学でどういう教育を受けることができるのか、どういう人材に育てるのかといった方針を他大学に先んじて打ち出していないといけない。受験生や高校が大学を選ぶ視点も変わってきており、受験者に対し、大学が輩出する人物像を明確にしていってほしい。

◆夏に全学入試改革WGを立ち上げ、これからの入試改革に対応していきたいと考えている。

◆これからの入試改革に対応できるような改革を行ってほしい。小手先の改革ではなく、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについて整合性を持った改革を検討してほしい。

◇資料5の1の2ページ、概算要求のうちの「機能強化の方向性に応じた重点支援」取組番号2の「新たな農学系教育体制の準備と組織の整備推進」について、実施期間が29年度までとなっているが、組織の設置を予定しているのなら、スピード感とインパクトを持って行うことが重要であると思う。

◆農学系人材養成機能調査については、農学系人材養成組織を設置した場合の、志望者などの入口と、就職先などの出口について等まだ不確定要素があり、今後も調査の必要がある。調査をした上でスピード感を持って全学再編に取り組んでほしい。

◇機能強化の方向性に応じた重点支援（総表）にある10の取り組みに係る予算について、一括予算で配分されるのか。取組内容について、多くの教員が関わるように見えるが、教育研究と両立できるのか。実務の時間が減らないように、また教育研究の時間が取れるようにした方がいい。

◆文科省からの配分は一括なのか、戦略毎なのか明らかではない。ただ10の取り組みをやることは決まっている。限られた予算配分の中で、また足りない部分については学長のリーダーシップに係る特別予算で賄うことも考えている。教員が関わる取り組みについては、できるだけ簡略化やスリム化を進められるようにしたい。

◆アドミッションセンターには基本方針や試験問題を作成する入試の専門家を配置することも入っている。

◇福島大学のこれからの新たな入試プランに期待したい。配置される入試の専門家には、人間性も判断材料とするような仕組みを取り入れてほしい。また、学長のリーダーシップとして、学長の情熱や考えを大学にどう浸透させていくか、学長の生の声を構成員に届けていくことが重要であると思う。

◆今年の1月から学内の教職員向けにメールマガジンを配信しており、レスポンスは今のところ少ないが学長の考え等について情報を発信している。また拡大会議などを設け、現場の職員との意見交換を行っており、出された意見に関して対応を考えている。学生とは1年に1度の懇談会を設けている。4500名の学生に対し、どこにターゲットを当てていくかは難しいが、今後できるだけ意思疎通をはかっていきたい。

#### (4) その他

・オープンキャンパス2015の報告について

三浦理事から、資料6に基づいて、平成27年度のオープンキャンパスの来場者数について報告があった。

◇2018年問題もあることから、オープンキャンパスを含む広報についても強化していかなければならない。東洋大学では、2013年に50万部配布していた大学案内を廃止したが、受験生が2万1000人も増えたという事例がある。大学案内配布を廃止したが、その代わり高校生向けに大学HPで授業風景を掲載し、大学の雰囲気を知りやすく宣伝したこと、受験生が増加したと考え

られる。今の大学改革の流れとして、一つ先を読み動いていくことが重要である。それは福島大学にも求められていることだろう。

◆今年のオープンキャンパスは昨年度よりも 500 人程増え、震災前に回復しつつある。入学者に聞くと、オープンキャンパスに参加していた学生は 2 割程度であった。オープンキャンパスに参加し、本学を強く志望している受験生が入学してもらえるよう、工夫していきたい。

◆今の受験生はインターネットでの情報収集も多く活用しているため、授業などの風景を大学HPに掲載したり、例えばバーチャル体験できるような工夫を展開できるように、検討していきたい。